

視察（研修）報告書

平成31年2月12日

府中市議会議長 様

会派名又は
議員名 創生会

日 時	平成31年2月5日（火）
視察（研修）先	高知県 いの町 紙の博物館
視察（研修）項目	紙の博物館での見学研修
参 加 者	会派議員6名
視察（研修）内容	<p>2月5日 紙の博物館での見学研修</p> <ul style="list-style-type: none">●担当の説明員より管内の展示について説明を受けながら見学<ul style="list-style-type: none">・土佐和紙は、貢納した記録から、約1000年以上前には製造されていた。・土佐七色紙が創製され、江戸時代、幕府への献上品として藩の保護を受けた。 <p>土佐の主要な特産品として土佐紙の名は広く知られるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none">・明治時代には、吉井源太が典具帖紙・みつまた改良半紙などを考案し、製紙用具の改良に力を注ぎ紙業発展の基礎を築いた。・原料栽培から出荷まで、土佐和紙ができあがるまでの工程がご紹介されていた。 <p>楮や三桮といった原料の栽培から刈り入れ、原料加工の一連のプロセス、紙漉に必要な道具やそれらを制作する様子が手に取るように分かった。</p> <ul style="list-style-type: none">・和紙加工品の販売スペースがあり、便せん・封筒、半紙・巻紙など様座な製品を揃えていた。・博物館の職員は、全部で10人。説明員、紙漉き工房作業員、販売員など。 <p>建物の場所は、日本製紙の工場跡に建てられており、企業からの派遣役員も運営に携わっておられる。</p>

<p>所 感</p>	<p>歴史から、作業工程などの展示や現場の紙すき体験エリアも完備されており学校関係の生徒の教育だけでなく、一般の観光客にとっても日本の和紙の素晴らしさが体得できる施設となっている。</p> <p>地元で和紙工房を復活するうえで、何を揃えなければならないかを考えるうえで大いに参考になった。</p> <p>例えば、昔から和紙作りに使用されていた用具、楮の原料が和紙に変わるまでのプロセス、和紙すき体験するうえでの必要な材料、今後加工品を作るための様々な製品等参考になった。</p>
------------	---